

2026年3月期 決算説明会(2026年5月15日(金)開催)における質疑応答

No.	質 問	回 答
1	完成工事高2,000億円を目指すうえで、施工人員不足がボトルネックになる懸念はありませんか。どのように人員を確保していくのでしょうか。	完成工事高2,000億円規模に向けては、人員増加だけでなく、施工の生産性を高めることが重要だと考えています。人員の増強に関しては、採用や育成を進めながら、スキル情報の可視化やエンゲージメント向上を図り、人材の適切な活用と定着を図ります。施工の生産性向上については、物流・加工ネットワークであるSNK-SOLNetの活用や、協力会社との連携強化、デジタル・AI活用により、現場生産性の向上を行い、施工体制を最適化することで、完成工事高2,000億円規模を支える体制を構築していきます。
2	中東情勢の不安定化に伴う(資材価格や物流費の上昇)リスクについて、今後の業績予想にはどの程度織り込んでいますか。	中東情勢については、エネルギー価格や資材価格、物流コストに影響を及ぼすリスクとして、注視しています。ただし、現時点では当社業績への具体的な影響額を合理的に算定することが難しいため、個別のリスクとしては、織り込んでおりませんが、従来から、資材価格や物流費の変動は、重要な事業リスクとして対応しており、受注時の採算性確認、案件ごとの原価管理、調達先との連携、契約条件の確認などを通じて対応しております。今後、業績見通しに重要な影響が見込まれる場合には、適時適切に開示してまいります。
3	2027年3月期は年間配当を120円とされていますが、DOEは7.8%へ低下する見通しです。追加増配を行う余地があるのではないのでしょうか。	ご指摘の通り、前期のDOE8.0%から7.8%と低下いたしますが、一方で、累進配当を継続する方針です。配当については、業績や財務状況、投資や資本効率を踏まえて判断してまいります。まずは、今年度の業績の達成に向けて、しっかり取り組んでまいります。そのうえで、今後、配当予想を見直す必要があると判断した場合には、適切に開示してまいります。
4	300億円規模の成長投資について、費用負担が先行する可能性もあると思いますが、ROE18%以上の目標とどのように両立させる考えでしょうか。	300億円規模の成長投資については、将来の収益基盤の拡大と競争力強化に向けた投資として位置づけています。ご指摘の通り、投資内容によっては短期的に費用が先行するものもありますので、投資については、案件ごとに必要性や採算性をしっかり見極めながら、優先順位をつけて段階的に進めてまいります。ROE18%以上の両立については、利益成長と資本効率改善の両面で実現していく考えです。具体的には、AI・デジタル、R&D、新規事業、M&Aなどへの投資を通じて、生産性向上、高付加価値案件の拡大、新たな成長領域の創出につなげていきます。あわせて、政策保有株式の削減や自己株式取得、累進配当などにより、資本効率の向上も図ってまいります。短期的な費用先行は一定程度想定しつつも、投資規律を徹底し、利益成長と資本効率改善を両立させることで、ROE18%以上の達成を目指してまいります。
5	現在保有している自己株式を含め、今後取得する自己株式の活用方針について教えてください。また、また消却の可能性や、取得を実施するタイミングについてどのように考えていますか。	自己株式の活用方針につきましては、現時点において具体的な使途を決定しているものではありませんが、株主還元、資本効率の向上、将来的な機動的活用の可能性等を踏まえ、資本政策上の観点から適切に検討してまいります。また、取得や消却の実施の有無およびその時期につきましては、株価水準、市場環境、投資計画、資金状況、財務健全性等を総合的に勘案のうえ、今後必要に応じて適切に判断してまいります。
6	M&Aについて、具体的にどのような会社を対象に考えていますか。	M&Aについては、現時点で具体的に決定している案件はありません。対象としては、既存事業の強化につながる領域に加え、デジタル・AI、グリーン領域、新規イノベーションなど、当社の成長戦略と親和性の高い分野を想定しています。ただし、M&Aは投資ありきで進めるものではありません。当社の強みとのシナジー、投資回収、リスクをしっかりと見極めたうえで、企業価値向上につながる案件を慎重に検討してまいります。